

[第124回]

『こうもり』は 元祖「ドッキリカメラ」!?

佐々木 正利 (声楽家・指揮者／岩手大学名誉教授)



ウィーンの大晦日の定番は、J.シュトラウスⅡ世が作曲した傑作、オペレッタ『こうもり』です。さしづめ我が国の「紅白歌合戦」や「第九」となりましょうか。この『こうもり』、ドイツ語圏のみならず世界各地で最も人気のある演目として親しまれています。オペレッタは、オペラから「笑い」と「セリフ」の要素を強調して派生したジャンルで「喜歌劇」と呼ばれますが、一般的には軽いと思われがちで、格調高い一流歌劇場ではまず上演はされません。しかしこの『こうもり』は別格です。かのウィーンにはオペレッタ専門の劇場「ウィーン・フォルクスオーパー」がありますが、この『こうもり』だけは「ウィーン国立歌劇場」でも上演されるのです。その理由とは何でしょうか。

まずウィンナ・ワルツでおなじみのJ.シュトラウスの音楽が素晴らしく、有名な「序曲」をはじめアリアや重唱など、名曲のオンパレード。普通オペレッタでは重唱が幅を利かせるのですが、『こうもり』においてはその重唱曲もことごとく素晴らしい。それだけでなく登場人物がみな個性的で、彼らが歌うどのアリアも耳当たりがよく、本当に楽しい歌が溢れてきます。主役級のロザリンデ夫人は勿論のこと、ドラマ上は脇役の女中アデーレに最も多くソロがあてがわれ、どの配役にまでも、きっと客席を笑わせてくれるようなコミカルな歌が用意されているので、聞かざるの誰でもが気軽に楽しめるのです。

そしてこの『こうもり』では、楽譜上セリフが厳密には書かれていないため、セリフの挿入箇所のいたるところで、アドリブ大いにありの演出が許され、歌に言葉に何が次々飛び出してくるか、お楽しみなのです。例えば冒頭、ロザリンデの元カレであるアルフレードの登場シーンで、復縁を迫るアルフレードが「飛び去った小鳩よ」と歌う辺りでは、セリフの代わりに別のオペラからの一節を歌いまくったりするのですから、全くもって楽しいではありませんか。

このアドリブの極め付けは、第2幕のロシアのオルロフスキー

公爵の舞踏会(夜会)のシーンで挿入される、作曲家(シュトラウス)のあずかり知らぬガラ・パフォーマンスの場面です。このガラ・パフォーマンスはオペレッタのストーリーとは直接関係ない「余興」、夜会のゲストとして誰を呼ぶかはホスト(オルロフスキー)の意思、実のところは指揮者と演出家の采配です。1960年のカラヤンの録音など、総勢11名の当代の歴史に残るオペラ歌手が、例えば「踊り明かそう」(ビルギット・ニルソン)とか「サマータイム」(レオンタイン・ブライス)、「ヴィリアの歌」(レナータ・テバルディ)等々、30分以上もかけて次々と10曲も披露しているのには唖然としました。まあそこまでやるかと、これには賛否両論ありましたが、まさに余興ではありますね。

ところで『こうもり』というタイトルですが、「オペレッタの内容」や、また動物のこうもりにも直接関係がありません。では何故に「こうもり」なのか。その題名の由来を正しく反映するとすれば「こうもり博士の笑いの仕返し」とでもなりましょうか。まあ今風に言いますれば、大勢の仕掛け人を動員して有名人をはめる「ドッキリカメラ」原点版のような内容です。ターゲットは銀行員のアイゼンシュタイン氏。そして彼以外の出演者はみな、全員仕掛け人という訳ですが、オペレッタを観ている聴衆にそれがわかるのは終演直前というのですから、シュトラウスⅡ世は、お客さまも騙すようなストーリー展開にしたという訳です。

この仕掛け人の中心人物は、かつて仮装舞踏会にアイゼンシュタイン氏と出席したファルケ博士。この仮装舞踏会に「こうもり」の仮装で出席したファルケ博士、酔いつぶれてしまって帰宅途中、街中で仮装のまま寝てしまったのです。その時、友人のアイゼンシュタイン氏はファルケ博士を介抱せず、街中に放置したまま帰宅してしまい、翌朝、こうもり姿のファルケ博士は、多くの市民から「こうもり博士」と揶揄されてしまいました。この恨みの仕返しに、いろいろな策略を練って・・・、ということになるのですが、とにかくアイゼンシュタイン氏以外の登場人物が、みな彼を騙す役目に加担するのですから、幕が上がって降りる直前まで、どんな仕掛けが待ち受けているのか、みなさんお楽しみに、ということ。

このお楽しみの正体にもう少し早く触れたい、分りたいたいと思われる方は、キャラホールで行われるオペラ鑑賞講座「Vival オペラ14」の受講をお勧めします。9月8日(金)からほぼ隔週で全5回、毎回19:00から20:30まで、私が『こうもり』を中心にオペラの魅力を解説します。岩手大学音楽科の学生たちの実演を交えて、オペラ初心者の方にも分りやすく、楽しく説明していきますから、ぜひキャラホールまで足をお運びください。お会いできますことを楽しみにしています。

■講座情報

キャラホールで9月8日(金)、20日(水)、10月3日(火)、13日(金)、25日(水)に「キャラホール オペラ鑑賞講座「Vival オペラ14」」を開催します。詳細はキャラホールの情報コーナーをご覧ください。

編集「月刊げっと」編集部

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通 2-9-1 マリオス5F
公益財団法人盛岡市文化振興事業団
TEL 019-621-5151 FAX 019-621-5101
http://www.mfca.jp/